

こすもす便り 第7号 (2017年5月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

★4月の外出から

綾の吊り橋までお出かけしました。行きの車の中では、吊り橋の話で盛り上がり、みんな橋を渡る心の準備を整えていきました。到着してから、昼食を食べながら、もう一度心の準備をしていました。「前にも来たことがあるから怖くないよ」と言っていたのですが、しばらく眺めていて、「やっぱり怖いな」とつぶやきます。職員が「ここから見ていただけでもすごいね～。私も怖いから一緒に待ってようか」と言うと、しばらくして決心したように、「渡る！」職員と一緒に渡りました。すると、「もう1回」と言いながら、結局3も往復しました。

みんなで橋を渡って森林浴で少し下り、綾の森林浴を満喫していました。しっかりピースサインで記念写真に収まりました。どんな記念日になったのでしょうか。

★生活する力

学校の休み時間は「生活する力」を獲得出来る良い機会です。もちろん教科学習は必要ですが、それだけでは「生活する」という面での役割を果せるとはいえません。

国語や算数の問題が解けたという充実感は、生活することにある程度のゆとりがあって意味のあるものにすることが出来るのではないのでしょうか。子供の目先の能力の改善に重点を置きすぎると、療育の成果を「暮らし」に繋げることができにくくなってしまふこともあります。

「特徴」や「こだわり」も、子供たちにとっては「自己主張」であり「能力」であることも少なくないのですから、問題行動といわれる行動を、社会生活の中で受け入れられやすい行動へと誘うことが重要です。伝達方法が未熟だと、周囲にとっては困った行動になり、「伝えたい」という気持ちが伝わらないためにパニックになってしまいます。パニックになりたくないから「うまく自分の気持ちを伝える方法を教えてほしい」と希望しているのです。また、家庭でのしつけでも「行動を変える」ことを重点的に考えると間違ってしまう。心が行動を引き出すことを忘れないようにしなければいけません。

もし、家庭でも授業時間の延長のように、決められた時間に決められた行動を求め、気持ちより行動を変えようとするしつけが続くと「生活する力」が養われる機会は奪われてしまうかもしれません。

目先の行動を改善しようとして禁止語が多くなると、聞いてもらえるどころか、伝えようとさえしなくなります。

ルールがあるから遊びがよりいっそう楽しくなったり、勝敗を競うゲームを繰り返しながら、相手の気持ちと自分の気持ちが比較できるようになったり、伝わる喜びを経験することで自分の気持ちを伝えるための様々な方法を学んでいけるのです。人の気持ちは大人の禁止語で変わるほど簡単ではありません。

★ある日の出来事

先日、花壇の植え替えをしました。土の中から出てきた小さなミミズを「かわいい～」と愛おしそうにそっとのぞき込み、何やしばらく話しかけ、名残惜しそうに優しく、土のある場所に戻している心やさしい二人がいました。

普段は人間に怖がられたり、いやがられたりするのにも、こすもすでは、蜘蛛だって、「かわいい～」とかわいがってもらえるのです。なんて素敵なお子様たちでしょう！